

<p>1 学校教育目標</p> <p>校訓「使命に生きる」「自主自律を尊ぶ」「明朗清新を喜ぶ」の精神のもと、生きて働く知識・技能の習得や未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう力や人間性等の涵養を通して、未来の創りに求められる資質・能力の育成を図る。</p>	<p>2 本年度の重点目標</p> <p>①基本的な生活習慣の確立と安全・安心な学習環境の実現に向けて、きめ細かな生徒指導を行うとともに、部活動の活性化に努める。 ②キャリア教育の充実に向け、生徒一人ひとりの進路希望の実現に向け、確かな学力の育成とガイダンス機能の充実を図る。 ③校訓の「使命に生きる」の精神を踏まえ、探究活動などを通して、自己や社会についての認識を深め、高い志をもって進路実現を図る生徒の育成に努める。 ④保護者や地域社会、関係機関との連携を密にし、信頼関係を深めるとともに、本校の情報を積極的に発信する。 ⑤新教育課程の理念や特質を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、学習過程の改善に取り組む。</p>
---	--

3 目標・評価

①基本的な生活習慣の確立と安全・安心な学習環境の実現に向けて、きめ細かな生徒指導を行うとともに、部活動の活性化に努める

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	基本的生活習慣の確立	◇遅刻者の延べ人数を前年度より20%減少させる。 ◇特別指導の措置件数を5件以内にする。	○遅刻の増えそうな日には、事前に指導する。 ○特別指導が発生しないように、軽はずみな行動が自分自身や周りに大きな影響を与えることを、前もって認識させる。
		ルールの順守とマナーの向上	◇乗車マナー指導を各学期に1回以上実施する。 ◇駐輪場の整理整頓・施錠を指導する。 ◇交通事故件数を20件以内にする。	○毎朝の登校指導を行う。 ○各学期に1回以上、通学路にも職員を配置して指導する。 ○学年ごとに駐輪場を指定し、定期的にチェックする。 ○昨年度の交通事故データを元に事故減少のための注意喚起を根気強く行う。
		教育相談活動の充実	◇担任・教科担当・養護教諭ならびに家庭と連携して、困難を有する生徒の状況を積極的に把握し、早期の支援に取り組む。 ◇必要に応じて外部機関との連携を図る。	○欠席や欠課を確認し、学校生活に集中できない状況が見込まれる生徒に、カウンセラーとの面談などの支援を積極的に働きかける。 ○学校生活に困難を有する生徒の情報を、ケースごとに職員間で共有する。 ○校外の医療機関や専門機関と連携して、個々の生徒の状況に応じた支援を行う。
		人権・同和教育の推進	◇すべての生徒が差別を許さず、差別をなくしていく民主社会の形成者となるように、その育成に努める。 ◇すべての生徒がそれぞれの個性を認める多様性のある社会を実現できるように、その育成に努める。	○担当が他校のホームルームや様々な研修を参観し、十分な職員研修を行い人権・同和教育のホームルーム活動等を実施する。 ○学校生活を落ち着いて送れるための雰囲気作りを確保するために、教師が見本となる言葉遣いや態度で生徒の指導にあたる。
教育活動	●健康・体づくり	清掃活動及び健康増進の充実	◇学校生活に適した環境づくりを推進する。	○清掃活動を充実し、校内美化に努める。特に教室の整理整頓を徹底する。 ○ゴミの分別を徹底する。 ○美化情報等を適時に発信する。
		部活動の活性化の推進	◇新入生の入部率を80%以上にする。 ◇ボランティア活動を積極的に起こす。 ◇学校ホームページの部活動の欄を充実させる。	○部活動紹介や体験入部の内容をより豊かにすることで、入部を促す。 ○ボランティア活動の案内や参加を積極的に促す。 ○部活動の状況について新しい情報を収集し、適宜発信する。
学校経営	●いじめの問題への対応	組織的な対応	◇いじめの未然防止に努める。 ◇いじめの早期発見、早期対応、被害の最小化に努める。 ◇被害生徒の回復に向けて、組織的に支援する。	○ホームルームや生徒会活動、教科指導等を通して、好ましい人間関係等、いじめ問題についての適切な指導を行う。 ○いじめの疑いの覚知やいじめの認知に至った場合は、速やかにいじめ・体罰等対策委員会等を招集して対応を協議、遂行する。 ○被害生徒の状況を継続的に確認する。

②キャリア教育の充実に向け、生徒一人一人の進路希望の実現に向け、確かな学力の育成とガイダンス機能の充実を図る

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	キャリア教育の充実	◇教育課程内外を通じた体系的・総合的な教育活動の中で①人間関係形成・社会形成能力②自己理解・自己管理能力③課題対応能力④キャリアプランニング能力⑤専門的知識・技術・技能の5つの能力の育成を目指す。	○宿泊研修や修学旅行を通して、他者の個性や自己の役割を理解する力、コミュニケーションスキルを身につける。 ○大学訪問や職場体験を通して様々な課題を発見し、その課題を適切に処理し解決する力を身につける。 ○職業理解ガイダンスや進路別説明会で、働くことや学ぶことの目的・意義を理解し、生き方の多様性を理解する。 ○様々なキャリア教育活動の記録をポートフォリオに残し、振り返りの中で自己の成長を確認できるようにする。
		進路希望の実現	◇国公立大学10名以上、難関私立大学10名以上を目指す。 ◇進学希望者それぞれの第一志望合格を目指す。 ◇就職希望者全員の希望職種への就職を目指す。	○全国模試を起点としたPDCAサイクルをまわし、チェックの機会として学力検討会を開催し、生徒の状況把握と授業の方針について常に情報を更新し、効果的な授業が展開できるようにする。 ○的確な入試情報の提供を行い、合格に必要な力を育成するための支援を行う。 ○面接練習やマナー講座を企画し、就労意識を高める。 ○会社訪問を積極的に行い、求人を開拓をする。

③校訓の「使命に生きる」の精神を踏まえ、探究活動等を通して自己や社会についての認識を深め、高い志をもって進路実現を図る生徒の育成に努める

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●志を高める教育	総合的探究の時間の充実	◇年間計画にもとづき、自己の特性や社会構造を知り、自分がどのような形で社会に貢献できるか(使命に生きることができるか)を考える。	○「職業理解ガイダンス」や「出前講座」を通して働く意義や自己の社会での役割を考えさせる。 ○探究活動を通して、自ら研究テーマを設定し、課題解決のために、情報を集め、整理・分析し、校内発表会等で発表する。
		HR活動の時間の充実	◇他の個性を理解し認め合うことで、よりよい人間関係を形成する。 ◇自らの夢や目標の実現に向けて努力する資質を高める。	○学校での生活を充実させるための課題とその解決策を主体的に考える場を提供する。 ○地域とのつながりを意識し、郷土に対する愛着を育み、誇りを持たせる。

④保護者や地域社会、関係機関との連携を密にし、信頼関係を深めるとともに、本校の情報を積極的に発信する

学校運営	○地域社会等との連携	地域貢献活動の推進	◇地元自治会等と連携・連絡を密にし、地域主催行事への協力等を通して、地域社会における信頼感の醸成に努める。また日頃より学校の活動を理解してもらうためにも情報発信を心がける。積極的に生徒の地域へのボランティア体験を推奨することで生徒の地域や佐賀県全体への誇りを育成する。	○「学校だより」の紙面、その他さまざまな機会を通して、本年度の重点目標についての広報を行い、生徒・保護者への周知・浸透を図る。
		教育目標や重点目標の周知	◇生徒・保護者アンケートにおける教育目標や重点目標の認知率が半数を上回るよう、周知に努める。	○学校だよりや学校ホームページ等、生徒・保護者向けの発信媒体を通じて、重点目標がわかりやすく伝わるように工夫する。
	○開かれた学校づくり	外部への積極的な情報発信	◇学校だより「飛翔」を年5回発行する。 ◇学校HPの更新に努める。 ◇学校紹介パンフレットを充実させる。	○学校だより「飛翔」を充実させ、全校生徒はもとより地域住民の方々にも生徒会と協力して配布する。また、中学校への学校説明会や体験入学の際にも配布し、情報を発信する。 ○SEI-Netを活用し学校HPの更新に努め、内容を充実させ、保護者地域の方々に関心を持っていただく工夫を行う。 ○学校紹介のパンフレットの更なる充実を目指し、本校生徒の魅力が伝わるパンフレットを作成する。

⑤新教育課程の理念や特質を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、学習過程の改善に取り組む

学校運営	○新教育課程への対応	職員の研修・研鑽の推進	◇教科単位の研究会や、ICT活用教育研修会、教育センター等での研修等を通じて、新教育課程への理解を深め、教職員自身が「高い志」をもってさらなる授業改善に務める。	○校内外における研修の機会を積極的に活用できるよう、情報提供と環境作りを努める。 ○教職員が互いに授業を参観、意見交換を行いやすい状況を醸成する。
		新カリキュラムへの取り組み	◇新カリキュラム実施に向けて教育課程の作成に着手し、原案をまとめる。	○新カリキュラム実施に向けたカリキュラム委員会を開催し、各教科の意見をとりまとめる。

⑥教職員の働き方改革の推進を受けて、業務の見直しを進めるとともに、部活動の休養日を確実に履行し、時間外労働時間の縮減を図る

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校経営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	時間外労働時間の縮減	◇月別時間外労働時間100h超者の延べ人数を、前年比10%減らす。 ◇定時退勤日を毎月1日以上設ける。	○「部活動に係る活動方針」に沿って、部活動の休養日の適切な設定を、各部顧問に要請する。 ○行事予定表に掲載するなど、早めに周知を図り、無理なく定時退勤できるよう計画的に実施する。

⑦その他の評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○読書活動の推進	図書室の利活用促進	◇学校図書館の計画的な運用を心がけ、図書館関係の学校行事を充実させる。 ◇今年度より図書研修部となり、「さがを誇りに思う教育」、「主権者教育」との連携を図り、学校図書館の観点から企画運営を積極的に行う。	○図書館報を充実することで、学校図書や書籍について関心を持たせ、貸出冊数や図書館利用者の増加を推進する。 ○図書選定の際、生徒へのリクエスト調査を行い、関心の高い書籍を購入する。 ○クラス読書会を年2回実施して、本を読む楽しさを生徒に伝えるとともに図書館への関心を増幅させる。 ○「さがを誇りに思う教育」や「主権者教育」を意識し、それに関する書籍の導入を心がける。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目